

# KELES Newsletter

## 関西英語教育学会報 2023年度 第1号

事務局：〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

京都産業大学 外国語学部 平野亜也子研究室内

E-mail: [kelesoffice@gmail.com](mailto:kelesoffice@gmail.com) 学会ウェブサイト: <http://www.keles.jp/>

2023年7月25日発行



### 巻頭言

## 研究大会のお礼と AI 時代における外国語教育

関西英語教育学会会長 泉 恵美子 (関西学院大学)

6月10日、11日に第29回研究大会が、大阪教育大学天王寺キャンパスにて開催されました。待ちに待った4年ぶりの対面開催に当たっては、多くの皆様にお世話になりました。講師をご快諾いただき、遠路駆けつけてくださった酒井先生、門田先生、熱意溢れる刺激的な内容に心が躍りました。素晴らしいご講演を有難うございました。企画ワークショップをご担当いただいた上山先生、中田先生、宮崎先生、俣野先生、安木先生、溝畑先生には、豊かな専門知識と優れたご実践やご経験を惜しみなく提供していただき、心より感謝申し上げます。13の研究発表や事例報告をしていただいた先生方、英語教育の発展に対する献身的なご尽力やご努力に心からの敬意を表します。先生方を通して、我々は外国語教育の未来を切り開き、学習者と教員の成長や幸福を考えることができたように思います。

また、企画・運営に携わっていただいた横川副会長、平野幹事長、幹事・理事、会場校の先生方や学生スタッフの皆様、そして会場に足をお運びいただいた120名を超える会員の皆様のご支援・ご協力があって成功裏に終えることができました。心より厚く御礼申し上げます。総会で多くの議事が検討され、新たな理事や幹事も承認されました。任期満了でご退任される高田先生、竹下先生、長谷先生、長きにわたりご貢献いただき、深く御礼申しあげます。

久々にお会いする先生方との会話に思わず笑顔がこぼれ、活気に満ちた会場でもともに学べる喜びを感じました。やはり人間のコミュニケーションは、表情豊かに、目を見て互いの声で語り合い、空間や時間を共有することも大切なのだと痛感致しました。

ICT や AI の急速な発展で、マルチモダルな外国語教育が可能になり、環境も変化しています。酒井先生のご講演の中で AI が進化する時代に英語教師はどうするのかという問いを投げかけられました。ChatGPT に AI 時代における英語教育について尋ねてみましたら、即刻次のような回答が届きました。English language education in the age of AI should strike a balance between leveraging AI tools and emphasizing the uniquely human skills that complement and transcend machine capabilities. By integrating AI literacy, personalized learning, language and AI integration, digital citizenship, and a lifelong learning mindset, educators can prepare learners to thrive in an AI-driven world while maintaining the essential human aspects of language and communication.なるほどと思いつつ、では具体的に英語教師として人間にしかできない教育をいかに実践すれば良いのか。思考力、感性、情動を伴い、学習者の思いを大切にされた教育とは、と次なる問いが生まれます。米国では、生成系 AI の活用が問題となり、筆記試験に戻ったり、退学になる大学院生も出てるとか。AI との共生を日本ではどうするのか、共に考え学び合うことが必要ではないでしょうか。顧問で恩師の沖原先生からは、原点を見失うことなく、真理を追究する活動を続けていって欲しいと激励をいただきました。新しい価値観や生活様式が生まれる中で、教育や学会の在り方も変わらざるを得ないでしょうが、change を chance と捉え challenges し続ける学会でありたいものです。引き続き、よろしくお願い申し上げます。

## 報告 関西英語教育学会 第29回研究大会

開催日：2023年6月10日（土）・11日（日） 会場：大阪教育大学天王寺キャンパス

2023年6月10日（土）・11日（日）に、第29回研究大会が開催されました。4年ぶりの対面開催で、休憩時間にも熱い議論を交わす姿から対面の良さを実感しました。今年は、酒井志延先生、門田修平先生によるご講演をはじめとして、4件の企画ワークショップや13件の研究発表・事例報告があり、盛会のうちに終了しました。120名以上の方々にご参加頂き、活発な議論が展開されました。

講師をお引き受けくださった先生方をはじめ、ご発表くださった皆様、参加してくださった皆様、会場を提供して下さり事前のご準備等にご尽力くださった皆様に心から感謝申し上げます。なお、当日のプログラム・発表概要等の詳細については、年次大会特設ウェブサイトをご覧ください。

( <https://sites.google.com/view/keles2023/> )

### <10日（土）講演>

#### 「どうする英語教師—AIが進化する時代において」

講師：酒井 志延先生

（千葉商科大学）

「Kahoot!から始めましょう。」酒井先生のご講演はこんな掛け声から始まった。参加者はAIの進化が英語教育にどのような影響を及ぼすかなどの問いに答えた。

その後、酒井先生はAIの進化によってもたらされた明るい側面を紹介された。たとえば、英語を習得してから運用力をつけるという従来の考え方ではなく、AIを駆使することによって、習得しながら運用力を高められる可能性を述べられた。

続いて、AIの台頭によって、暗いと思われる側面について、アメリカでの研究を基に、AIの技術進歩によって最も影響を受けやすい職業の第2位に英語教師が挙げられていることを指摘された。

AIがもたらす両面を考察した後、酒井先生は、「英語教師は不要なのか」と参加者に問いかけられた。酒井先生の答えはNoである。ただし、AIの活用を前提にしつつ、人間にできる教育の模索、具体的に

は、「考えさせる」授業をどのように実践するかが重要だと強調された。

本題に入る前に、学校教育で育成すべき能力を「知性的能力」「理性的能力」「感性的能力」と整理された。これらの3つの能力はバランス良く育成されるべきである。しかし、現状は試験などで数値化しやすい「知性的能力」が重視されていると指摘された。

AIの進化で、「知性的能力」への比重が下がりつつある。今後は、学校教育を通して、英語教師が「理性的能力」「感性的能力」をどう育むべきかを考えることが大切であると述べられた。

「理性的能力」を伸ばすには、小学校現場を例に、児童同士の競争に主眼を置くのではなく、相手の状況に思いを馳せ、むしろお互いに足りないところに目を向けて、それらを埋め合う協同学習の大切さを説かれた。

次に、「感性的能力」を伸ばすために、大学生を対象にした感性に訴えるディベート実践を紹介された。このディベートは、相手チームを論破することを目的とするのではなく、オーディエンス（ジャッジ）の感性に訴えた方が勝利とする独自ルールである。

このように、教育活動を通して「理性的能力」や「感性的能力」を育成することの大切さを述べつつ、それぞれの能力を調和のとれた方法で育成することが重要であると強調された。

講演の結びでは、AIの恩恵を上手く取り入れ、「理性的能力」「感性的能力」も養成できるように英語教師自身がリスキリングしなければならないと総括された。

本講演では、英語教師という一人の人間が、児童・生徒・学生とどのように関わり、英語教育を通して、どのような力を身に付けさせたいのかを明確にすることの大切さを学んだ。小学校現場で働く一人の英語教師として、本講演で学んだことを少しでも体現できるように、「考えることをやめず」一步一步取り組んでいきたいと思う。

報告者：中西 洋平（関西大学大学院後期課程）

## <10日(土)企画ワークショップ>

### 「中高生におすすめのスピーキング&ライティング活動」

講師：上山 晋平先生

(広島県福山市立福山中・高等学校)

上山先生のワークショップは200枚近くに及ぶ資料と先生の軽快なトークとともに始まった。参加者が何度も生徒の立場となって体験的に参加する時間が設けられ、スピーキングとライティングの活動具体例を実践のコツとともに解説された。

前半はスピーキングの活動について、効果的なリテリングの実施方法と直面する課題、その先にあるショートプレゼンテーションへの繋ぎ方についてご提示いただいた。例えばリテリングを行う時期については、本文理解の後に、家庭学習による練習時間の確保を経て実施すると効果的であること、またそのために **scaffolding** として、授業内で視覚資料やキーワードマッピング作成などの準備の時間をとることが望ましいことなどが示された。さらにリテリング活動がそのみで終わってしまうという課題への対策として、ショートプレゼンテーションへ繋げるコツを事例とともにご提示いただいた。

後半はライティング指導について、その現状と課題、そしていくつかの対策案を解説いただいた。現場の困りごととして、ライティング指導はどうしても後回しになること、フィードバックの方法とその有効性が必ずしも明確でないことなどが共有された。その上でライティング指導の大切なポイントとして6つご紹介いただいたがワークショップでは特に単語→1文→文章へと段階的な指導方法をご提示いただき、生徒の作成した英語新聞を紹介いただいた。

授業で生徒が飽きないよう、また主体的に取り組めるようあらゆる場面で上山先生がなされている“仕込み”も紹介いただいた。例えば全体の様子を伺うべく手を上げてもらった際には必ずその実情を共有し教師が適当に手を挙げさせているのではないことを生徒にわかってもらう、活動の時間を測る際にはいきなり **Time is up.**と言わずに「あと30秒だよ」などの声掛けをし、生徒が取り組みやすいような流れを作るなどワークショップを通して多くの **tips** が紹介された。

話すことと書くことの指導に関して、単なる活動案の紹介ではなく、それぞれの活動のその先にあるもの、そしてそこを目指す教師の決意が大切であることに改めて気付かされたワークショップであった。

報告者：小柴 和香 (四天王寺大学)

### 「英語教師、指導教諭、教師教育者のための ナラティブ探究」

講師：中田 賀之先生 (同志社大学)

宮崎 貴弘先生 (神戸市立葺合高等学校)

俣野 知里先生 (京都市立二条城北小学校)

講演の初めに中田先生が、ナラティブ研究(NI)の基本的理論について、その後、NIと従来型研究の相違点を説明された。従来型が聴者に目を向けず収集したデータの共通項を見つけて一般化し、研究者と対象者という立場関係を保持する一方、NIでは特定のケースの深遠な理解を目指し、語り手(ナレーター)・聞き手(リサーチャー)・聴衆(オーディエンス)に目を向ける。さらに、NIの優れた点として、リサーチャーは、ナレーターの「内部からの視点」を獲得し、新たな発見や内省をする。オーディエンスを念頭に置くことで、ナレーター・リサーチャーともに語り手となり、新たな発話やアイデアにつながる、などが挙げられた。

中田先生によるNIの説明に続いて、中田先生・宮崎先生・俣野先生による実演があった。実演したリサーチャー役の先生からは、「自分の過去を振り返り、将来どうしたいのか考えながら話を聞いていた」「ナレーターを身近に感じた」との感想があった。参加者同士の実践では、ナレーター役の参加者が「リサーチャーの聞き方がうまく、つい話しすぎてしまった」などの感想を述べられた。

最後に、NIの課題について説明があった。NIは医学・看護分野で主流だが、教育分野では主流から外れている。また、他の研究方法に比べ、研究の整理が行われておらず明確な基準がない。そのため、学会におけるナラティブ研究の位置づけがあいまいである。さらに、リサーチャーの身の上を語る必要性についての懸念が示された。

質疑応答では、「ナラティブが進行するにつれ、ナレーターとリサーチャーの関係が逆転してしまう」「NIを用いて論文を書く際、文脈とナレーターの背景を記述する必要がある。また、収集したデータを一般化する従来の研究論文の枠組みでは、NIを用いるのが難しい」などのNIの難しさに対する意見が出された。

報告者：小原 優希 (関西外国語大学大学院)

## <11日(日)講演>

### 「第二言語習得を支える認知・社会認知システムと英語の学習指導」

講師：門田 修平先生（関西学院大学）

第二言語リーディング、メンタルレキシコン、シャドーイングなどについての優れた研究で有名な門田先生による、新たな研究の展開や方向性についての学際的な洞察が盛り込まれた刺激的な講演であった。具体的には、従来の認知システムに加え、新たに社会認知システムに着目した上で英語の社会脳インタラクションの重要性について詳説された。

認知システムについては、情報の処理や記憶のしくみに関するワーキングメモリ研究等の知見が挙げられる。これらは言語習得を説明する上で重要な科学的視点を提供する一方、実際の対人コミュニケーションにおけるダイナミクス – 他者との相互交流（インタラクション） – を十分に勘案できていないという限界がある。教育方法に関しても、例えばシャドーイングの有効性については多くの認知的説明や実証的証拠が存在するものの、これまでは他者との関わりという社会的相互作用を踏まえた理論的・実践的発展が十分になされてこなかった。

ここで登場する新たな視点が、脳内のデフォルトモードネットワークと関連の深い社会認知システム（社会脳インタラクション）である。社会認知システムについては主に以下の4点から説明がなされた。

1点目は、メンタライジング（認知的共感）である。発達心理学における「サリーとアン課題」が示すとおり、人は普段から他者の考えを推測したり意図を理解したりといった社会認知的能力（「心の理論」）を行使している。

2点目は、ミラーリング（情動的共感）である。マカクザルを対象とした神経科学研究の結果、高等動物の脳内には、自ら行動する場合にも他者が行動する場合にも同じように活動するシステムが存在し、これはミラーリングシステムと呼ばれる。これは他者の動きそのものではなく、特定の意図や目的を持った他者運動によって賦活することが示されている。つまり、他者が行動しているのを見るだけでも、自分が行動しているのと同じ反応が無意識的に脳内で起こっており、これにより他者の行動の意図を理解することにつながると考えられている。人間を対象とした研究でも、ミラーリングシステムには運動選択性があることが示されている。例えば、ダンサーを対象とした実験では、自分が専門とするダンスの

動画を観ているときには、専門外のダンスの動画を観ている時に比べて、ミラーリングシステムの活動量が大きくなることが報告されている。つまり、ミラーリングは、対象行動の親密度や目的に影響される無意識的な非言語行動であり、脳内の運動ベースの基盤・情動ベースの基盤によって成り立っている。神経同期の研究が示すとおり、例えば会話において、話し手の脳活動と聞き手の脳活動は無意識的に同期している。これにより、社会的相互作用における重要な側面である直観的なコミュニケーションが成り立っている。なお、脳損傷患者への共感力調査の結果、認知的共感と情動的共感にはそれぞれ特定の脳部位との間に深い関連がみられることから、認知的共感と情動的共感は区別することができる。

3点目は、顔認識に関係する二つの処理経路である。腹側経路では顔の構造的な特徴に基づいた静的な認識がなされる一方、背側経路では顔の表情の変化や視線といった動的な認識がなされている。後者は扁桃体や島皮質といった情動（エモーション）にかかわる仕組みと関連が深く、社会脳ネットワークは情動脳との関連が強いことが示唆される。

4点目は、視線誘導に基づく共同注意である。学習の端となる視線の感知は扁桃体（情動脳）の機能と関連していることが分かっている。視線共有タスクや共同注意タスクを用いた実験の結果、注意が共有された相手とは、まばたきのタイミングのみならず右下前頭回（脳の語学の適性に関係する脳部位）の活動も同期することが明らかとなった。これらは、社会的やりとりにおいては言語処理と連動して、神経同期を含む共同注意が同時進行している可能性を示唆している。

さらに、このような社会脳インタラクションを言語活動実践に応用したアイデアとして、社会脳多読・多聴、インタラクティブ・シャドーイング、応答練習スピーキング活動が紹介された。いずれも、他者とのかかわりの中で活動を行うという点に特徴がある。最後に、認知システムベースの活動（例：PPP（Presentation、Practice、Production））と社会認知システムベースの活動（例：TBLT（Task-Based Language Teaching））は相互補完的であることが述べられた。

質疑応答では、アフォーダンスや三位一体脳の観点などの理論的事項や具体的な授業活動の実践的方法などのトピックについて意見交換がなされた。

報告者：金澤 佑（大阪大学）

## <11日(日)企画ワークショップ>

### 「スローラーナーを支援するための英語指導法の提案」

講師：安木 真一先生

(京都外国語大学)

安木先生のスローラーナーとの出会いは、先生のキャリア初期に遡る。大学時代、訳読を中心とした教授法を学ばれ、それを試したもののうまくいかず、授業崩壊を経験された。そんな折に、齋藤榮二先生の本と出会い、訳読以外の授業方法を学ばれた。その後、教科書に固執せず、自作のプリント、英語の歌を使った活動などを行った結果、授業上の問題が解消されていた。

安木先生は、これまでスローラーナーが抱える音声面(音節、単語、文章の音韻化)でのつまずきに焦点を当て、実践や実証研究をされてきた。また授業改善の助言者として、中高への継続的な指導助言も行われている。ご発表の中ではスピーキングに至るまでの音声面での指導の積み上げを丁寧に行ったり、安木先生が携わった音読アプリを活用したりした結果、英語への抵抗感がなくなり、英語力が向上した学校の例が紹介された。

ワークショップでは、音声を中心とした活動をペアワーク・グループワークで体感した。具体的には、英語で数字のカウントアップ・カウントダウンをする練習、picture description、音声上気をつけるポイント(ポーズ、連結、消える音)を書き込む活動、様々な音読(イチゴ読み、リッスンアンドリピート、オーバーラッピング、バズ・リーディング、通訳練習、(日本語訳を提示しての)シャドーイング)である。学習者として体感することで、負荷のかかり方であったり、実施する際の気を付けるべきポイントであったりを頭で感じ取ることができた。また、音声面だけで終わらず、裏面書写という、表面に書かれた英文を裏面に書き写す活動も体験した。これを音読前後に入れることで、英語力の伸びを実感できることをデータとともに紹介された。さらに音読だけでなく、発展的なリテリングや音読の評価についても言及された。

安木先生の紹介された方法は、実践だけでなく、データも交えた素晴らしいものであった。80分があったという間に感じられ、本ワークショップだけで終わらず、また別の機会に参加したいと思ったのはきっと私だけではないはずである。

報告者：南 侑樹(神戸市立工業高等専門学校)

### 「『主体的・対話的で深い学び』をめざす

### 課題解決型活動とその評価方法」

講師：溝畑 保之先生

(桃山学院教育大学)

溝畑先生の企画ワークショップに参加し、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた課題解決型活動の授業実践例を紹介していただき、授業改善へのヒントを得ることができた。

まず、ワードカウンターを活用した活動である。単にスピーチをさせるのではなく、ワードカウンターを用いて発表者の発話語数を視覚化し、目標をもたせて意欲的に取り組ませる工夫がされていた。また、小テーマから始まり、大テーマへと発展させ、最終的には賛成・反対を述べるテーマを取り上げることで、段階を踏まえながら学生の成長とともに少しずつ負荷をかけて英語力を身に付けさせていく指導法は勉強になった。

次に、ループリック評価である。「主体的・対話的で深い学び」を重視した教育活動を行うにあたり、今まで数値化が難しかった活動に対してもループリック評価を用いると客観的な指標を示すことができ、教員と学生の両者が目標や到達レベルを共有して取り組むことができる。溝畑先生は授業の中でループリック評価を活動の随所に取り入れられており、自己・相互評価を通じて学生が意欲的に活動に取り組む工夫がされていた。

そして、ジグソー法である。グループで行うリーディング活動としてジグソー法が紹介された。それぞれのメンバーが異なる役割と情報が与えられ、それをグループに持ち寄って共有させる。協同的にタスクに取り組ませることによって、インプットからインテイク、アウトプットまでの一連の流れを効果的に作りやすい活動内容になっていることが分かった。

溝畑先生の企画ワークショップを通じて「主体的・対話的で深い学び」という視点から改めて自分自身の教育活動を振り返るきっかけとなった。ちょっとした工夫を加えることで、学生にとって実りある学習活動へと変えることができ、知識の定着だけでなく、能動的な学びの姿勢や態度を育てることができる。この学びを今後の教育現場で役立てていきたい。

報告者：寺嶋 宏樹(豊田工業高等専門学校)

# 報告 2023 年度 関西英語教育学会 会員総会

開催日：2023 年 6 月 10 日（土） 会場：大阪教育大学天王寺キャンパス

2023 年度会員総会では、宮崎貴弘先生（神戸市葺合高等学校）による司会進行のもと、議長に橋本健一先生（大阪教育大学）が選出され、2022 年度活動報告および決算報告、会計監査報告、2023 年度活動計画および予算案などについて報告・提案がなされ、承認されました。

## 1. 2022 年度活動報告

### ◆関西英語教育学会 2022 年度（第 28 回）研究大会

日程：2022 年 6 月 11 日（土）・12 日（日）

会場：オンライン開催（Zoom 利用）

内容：講演 1 件、研究発表・事例報告 4 件、企画ワークショップ 6 件

### ◆全国英語教育学会第 47 回北海道研究大会

<http://www.heles-web.com/jasele2022/>

期日：2022 年 8 月 6 日（土）・7 日（日）

会場：オンライン開催（Zoom 利用）

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：北海道地区英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：

課題研究フォーラム（2 年目）

タイトル：ICT を活用した協働的で深い学びの構築

コーディネーター：加賀田 哲也（大阪教育大学）

提案者：

橋本 芳宏（大阪教育大学附属天王寺小学校）

今西 竜也（京都教育大学附属京都小中学校）

乾 まどか（大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎）

### ◆セミナー・共催行事

#### ◇第 54 回 KELES セミナー

日程：2022 年 9 月 24 日（土）

オンラインセミナー（Zoom 利用）

テーマ：主体的・対話的・深い学びを促す英語授業—CLIL から学ぶ—

「主体的・対話的・深い学びを促す英語授業—CLIL から学ぶ—」笹島 茂 先生（CLIL 教育研修研究所）

「思考の深化を促す CLIL 授業—ICT を活用して—」中田 葉月 先生（甲南女子大学）

「CLIL×SDGs をトピックにして—グローバル視野を取り入れた大学でのワークショップ実践—」柏木 賀津子 先生（四天王寺大学）

#### ◇第 55 回 KELES セミナー

日程：2022 年 11 月 13 日（日）

オンラインセミナー（Zoom 利用）

テーマ：英語授業における ICT 活用：効果的な指導と評価

「「ライブクイズアプリ」—理論的・実証的な根拠に基づいた効果的な使い方—」エリザベス ホリー パフ 先生（京都産業大学）

「英語授業の「めんどくさい」から始める ICT 活用術」濱田 彰 先生（神戸市外国語大学）

#### ◇第 56 回 KELES セミナー

日程：2022 年 12 月 18 日（日）

オンラインセミナー（Zoom 利用）

テーマ：高校英語「論理・表現」をどう指導し、どう評価するか

「高校英語「論理・表現」で育てたい力—教科書をどう使うか」横川 博一 先生（神戸大学）

「「テーマ作文」、「スピーキングテスト」、「定期考査」をつなげて生徒の「自律性」を伸ばそう」

溝畑 保之 先生（常翔学園中学校・高等学校）

#### ◇関西英語教育学会 第 26 回卒論・修論研究発表セミナー

日程：2023 年 2 月 12 日（日）

オンラインセミナー（Zoom 利用）

スペシャル・トーク「信じれば救われる？—英語学習における自己効力感、学習方略、自己調整の役割について」竹内 理 先生（関西大学）

発表 12 件

### ◆課題研究プロジェクト

#### ◇「アクティブ・ラーニングを活用した英語授業」

（プロジェクト・リーダー：泉 恵美子（関西学院大学）、研究期間：2019～2022 年度、4 か年）

◆授業研究プロジェクト

◇「指導と評価の一体化」の実践課題：小・中・高での事例研究

(プロジェクト・リーダー:今井 裕之(関西大学)、  
研究期間:2022~2023年度、2か年)

◆広報・発行

◇ニューズレター 年4回発行(7月、12月、1月、  
3月:メール配信開始)

◇紀要『英語教育研究』第46号刊行(紀要編集委員会)

◇学会会員情報誌『KELES ジャーナル』第8号刊行

◆変更事項

◇年会費未納の場合の取り扱い

2023年1月末時点での年会費未納者には「2022年度年会費納入のお願い」を送付し、同2月末時点で年会費未納の場合は、「退会」として処理することとした。

(2022年度決算報告書)

関西英語教育学会2022年度決算報告書(案)

収入の部			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
前年度繰越金	3,918,641	3,918,641	
年会費	2,600,000	2,367,000	全国英語教育学会年会費も含む
参加費	80,000	34,686	関西英語教育学会第28回研究大会、KELESセミナー(第54/55/56回)、第26回卒論修論研究発表セミナー
論文集	50,000	25,000	学会紀要SELT販売、論文掲載費、論文印刷費用
その他	150,000	204,339	全国英語教育学会からの事務局補助費、2020年度課題研究費経費残金
計	6,798,641	6,549,666	
支出の部			
項目	予算額(円)	決算額(円)	備考
通信費	550,000	476,519	各種郵送料(学会紀要、ニューズレター、切手代、その他)、HPサーバー管理費・修正費、搬送手数料
研究費	1,000,000	608,370	講師謝礼、作業補助謝礼、ZOOM契約料、KELESジャーナル執筆料、その他
印刷費	1,100,000	1,183,560	紀要『英語教育研究』、KELESジャーナル、第26回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、学会封筒印刷
会議費	20,000	0	
交通費	80,000	0	
事務費	20,000	5,577	宛名シール、コピー用紙、封筒
全国年会費	560,000	566,000	2,000円×283名
予備費	30,000	0	
計	3,360,000	2,840,026	
収入総額	6,798,641	6,549,666	
支出総額	3,360,000	2,840,026	
差引残高(次年度繰越金)	3,438,641	3,709,640	

2023年 5月 15日  
 関西英語教育学会(KELES) 会計担当幹事  
 齊藤 倫子  
 濱田 真由

諸帳簿照合の結果、正確かつ公正に執行され、上記に相違ないことを報告します  
 2023年 5月 15日  
 会計監査

山本 誠子 (印)  
 氏木 道人 (印)

## 2. 2023 年度活動計画

### ◆関西英語教育学会 2023 年度（第 29 回）研究大会

日程：2023 年 6 月 10 日（土）・11 日（日）

場所：大阪教育大学 天王寺キャンパス

内容：講演 2 件、研究発表・事例報告 13 件、企画ワークショップ 4 件

### ◆全国英語教育学会第 48 回香川研究大会

<https://sites.google.com/shikokueigo.org/jasele2023/home>

期日：2023 年 8 月 19 日（土）・20 日（日）

会場：香川大学教育学部

<https://www.kagawa-u.ac.jp/>

〒760-8522 香川県高松市幸町 1-1

主催：全国英語教育学会（地区学会：北海道英語教育学会・東北英語教育学会・関東甲信越英語教育学会・中部地区英語教育学会・関西英語教育学会・中国地区英語教育学会・四国英語教育学会・九州英語教育学会）

担当地区学会：四国英語教育学会

関西英語教育学会担当プログラム：授業研究フォーラム

テーマ：「指導と評価の一体化」の実践課題：小・中・高での事例研究」

コーディネーター：今井 裕之（関西大学）

提案者：羽瀧 弘毅（西宮市立甲陽園小学校）

狩野 伸行（堺市立上野芝中学校）

有嶋 宏一（鹿児島県総合教育センター）

### ◆セミナー・共催行事

#### ◇第 57 回 KELES セミナー

日程：2023 年 9 月または 10 月開催予定、会場未定

#### ◇第 58 回 KELES セミナー

日程：2023 年 11 月開催予定、会場未定

#### ◇第 59 回 KELES セミナー

日程：2023 年 12 月開催予定、会場未定

#### ◇関西英語教育学会 第 27 回卒論・修論研究発表セミナー

日時：2024 年 2 月 11 日（日）または 12 日（月）

開催予定、会場未定

### ◆紀要『英語教育研究』

第 47 号を 2023 年度末に刊行予定（紀要編集委員会）

### ◆課題研究プロジェクト

新規プロジェクト 1 件程度採択予定（2025 年度全国英語教育学会関東甲信越地区大会において「課題研究フォーラム」担当予定）

### ◆授業研究プロジェクト

#### ◇「指導と評価の一体化」の実践課題：小・中・高での事例研究」

（コーディネーター：今井 裕之（関西大学）、研究期間：2022～2023 年度、2 か年）

### ◆学会会員情報誌『KELES ジャーナル』

第 9 号を 2023 年度末に刊行予定

### ◆広報・発行

◇ニューズレター 年 4 回発行（7 月、12 月、1 月、3 月の予定）

## 関西英語教育学会 2023 年度予算案

収入の部				
項		2022年度決算額	2023年度予算額	備考
1	前年度繰越金	3,918,641	3,709,640	
2	年会費	2,367,000	2,367,000	全国英語教育学会年会費も含む
3	参加費	34,686	100,000	関西英語教育学会第28回研究大会、KELESセミナー（第24-26回）、第26回卒論修論研究発表セミナー（今年度は業者展示なし）
4	論文集	25,000	25,000	学会起用SELT販売、論文掲載費
5	その他	204,339	150,000	全国英語教育学会からの事務局補助費
計		6,549,666	6,351,640	

支出の部				
項目		2022年度決算額 (円)	2023年度予算額 (円)	備考
1	通信費	476,519	650,000	各種郵送代（学会紀要、ニューズレター、切手代、その他）HPサーバー管理・修正費、振込手数料
2	研究費	608,370	1,000,000	講師謝礼、作業補助謝礼、会場費用（Zoom契約料含む）、KELESジャーナル執筆料、大阪高英研高校掲載料、プロジェクト経費、その他
3	印刷費	1,183,560	1,200,000	紀要『英語教育研究』、KELESジャーナル、第26回卒論修論研究発表セミナー発表論文予稿集、ニューズレター、お知らせ、学会封筒印刷
4	会議費	0	20,000	会議所経費（幹事会・理事会）
5	交通費	0	120,000	研究大会・セミナー、幹事・理事会、全国英語教育学会理事会の旅費
6	事務費	5,577	10,000	会議用資料印刷代、名札代
7	全国年会費	566,000	566,000	2,000円×283名
8	予備費	0	30,000	
9	J-Stage委託費	0	250,000	
10	次年度繰越金	3,709,640	2,505,640	
計		6,549,666	6,351,640	

## 2023年度 役員一覧

### 会 長

泉 恵美子 (関西学院大学) \*\*\*\*

### 副会長

横川 博一 (神戸大学) \*\*\*\*

### 顧 問

沖原 勝昭 (神戸大学名誉教授・

京都ノートルダム女子大学名誉教授)

織田 稔 (元関西大学)

瀬川 俊一 (京都府立大学名誉教授)

村田 純一 (神戸市外国語大学名誉教授)

吉田 信介 (関西大学名誉教授)

### 幹事長 (副会長兼務)

平野 亜也子 (京都産業大学) \*\*

### 紀要編集委員長

吉田 達弘 (兵庫教育大学) \*\*

### 幹 事 (10名)

浅羽 真由美 (京都産業大学) \*\*

齊藤 倫子 (関西学院大学非常勤講師) \*\*\*\*

篠崎 文哉 (大阪教育大学) \*\*

下村 冬彦 (立命館大学) \*

染谷 藤重 (京都教育大学) \*\*

新本 庄悟 (京都産業大学) \*

濱田 真由 (神戸大学) \*\*

俣野 知里 (京都市立二条城北小学校) \*\*\*\*

宮崎 貴弘 (神戸市立葺合高等学校) \*\*

山形 悟史 (関西大学第一高等学校) \*

### 理 事 (15名)

今井 裕之 (関西大学) \*

加賀田 哲也 (大阪教育大学) \*

門田 修平 (関西学院大学) \*\*\*\*

佐々木 顕彦 (武庫川女子大学) \*\*

里井 久輝 (龍谷大学) \*\*\*\*

照井 雅子 (近畿大学) \*\*\*\*

中田 賀之 (同志社大学) \*\*\*\*

名部井 敏代 (関西大学) \*\*

西本 有逸 (京都教育大学) \*\*\*\*

橋本 健一 (大阪教育大学) \*\*

平井 愛 (神戸学院大学) \*\*

増見 敦 (神戸大学附属中等教育学校) \*

溝畑 保之 (桃山学院教育大学非常勤講師) \*\*

大和 知史 (関西大学) \*\*\*\*

山本 玲子 (京都外国語大学) \*\*\*\*

### 紀要編集委員 (6名)

黒川 愛子 (帝塚山大学) \*\*

今野 勝幸 (龍谷大学) \*\*

菅井 康祐 (近畿大学) \*\*\*\*

中西 のりこ (神戸学院大学) \*\*

牧野 眞貴 (近畿大学) \*\*

三上 明洋 (関西学院大学) \*\*

### 会計監査 (2名)

氏木 道人 (関西学院大学) \*\*\*\*

山本 誠子 (神戸学院大学) \*\*\*\*

※ 同職位内では50音順

※ 下線は新任の役員を示す

### その他の審議事項

1. 関西英語教育学会紀要 SELT の投稿要領の一部改正について原案通り承認された。
2. 関西英語教育学会名誉会長・顧問の年会費の扱いについて原案通り承認された。

## 2023年度 幹事のご挨拶

浅羽 真由美先生（京都産業大学）

まだ幹事になって日が浅いですが、どうぞよろしくお願ひいたします。

齊藤 倫子先生（関西学院大学）

今年で4年目となり最後の年となりました。未だに知らないことなども多々ありますが、皆様のお役に立てるよう最後まで務めさせていただきます。

篠崎 文哉先生（大阪教育大学）

幹事2年目を務めます。みなさまに多くのことを学ばせて頂きながら、学会に貢献できるよう精進いたします。よろしくお願ひいたします。

下村 冬彦先生（立命館大学）

異文化理解と英語リスニング教授法を専門分野として研究を続けております。どうぞよろしくお願ひいたします。

染谷 藤重先生（京都教育大学）

皆様、KELESの幹事2年目をさせていただきます。至らぬ点も多いとは存じますが、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

新本 庄悟先生（京都産業大学）

学会の発展ならびに会員の皆様に少しでも貢献出来るように努めようと思ひます。まだまだ未熟者ですが、どうぞよろしくお願ひ致します。

濱田 真由先生（神戸大学）

微力ながら少しでもお役に立てますよう、精一杯務めて参りたいと思ひます。よろしくお願ひ申し上げます。

俣野 知里先生（京都市立二条城北小学校）

幹事として4年目を迎えました。皆さまと共に学ばせていただけますことを大変ありがたく思っております。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

宮崎 貴弘先生（神戸市立葺合高等学校）

幹事2年目で、Newsletter作成を担当しています。学び多いNewsletterの発行を目指します。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

山形 悟史先生（関西大学第一高等学校）

教育・研究ともに未熟者で恐縮ですが、多くの会員の皆様のお役に立てるよう精進いたします。どうぞ宜しくお願ひいたします。

## 学会事務局からのお知らせ

### ◆関西英語教育学会 学会誌『英語教育研究』 (SELT) 第47号 投稿論文募集

関西英語教育学会では、学会誌『英語教育研究』(SELT) 第47号(2024年3月刊行予定)への論文投稿を下記の通り募集します。

2023年度に開催された第29回関西英語教育学会研究大会および全国英語教育学会第48回香川研究大会での発表論文が優先されますが、これらの発表を経ない論文についても、一定の枠内で審査対象となります。会員の皆様の多数のご投稿をお待ちしております。

投稿受付期限：2023年8月31日(木) 22:00(午後10時) 厳守

投稿にあたって：学会ホームページ(<http://www.keles.jp/activity/selt/>)の投稿要領を熟読し、テンプレート(英語・日本語)をダウンロードし、テンプレートに書かれている諸注意も熟読の上、テンプレートを用いて原稿を作成し、学会ホームページの投稿フォームから投稿してください。投稿した日から3日以上経っても受領確認の

メールが届かない場合は、SELT担当幹事：浅羽真由美(京都産業大学)までメール([masaba@cc.kyoto-su.ac.jp](mailto:masaba@cc.kyoto-su.ac.jp))で問い合わせ下さい。詳細は同封のフライヤーをご覧ください。

### ◆各種お問い合わせ先

・学会費、入・退会、会員情報の変更：会計/名簿担当幹事(齊藤倫子 関西学院大学/濱田真由 神戸大学) [keles.treasurer@gmail.com](mailto:keles.treasurer@gmail.com)

・学会誌『英語教育研究』：SELT担当幹事(浅羽真由美 京都産業大学) [masaba@cc.kyoto-su.ac.jp](mailto:masaba@cc.kyoto-su.ac.jp)

・研究大会、セミナー、その他学会全般に関するお問い合わせ：事務局 [お問合せフォーム](#)

### ◆メールアドレスご確認のお願い

2022年度第2号からニューズレターは、PDF化して会員様宛に一斉メール配信をしております。もしも届いていない場合は、お手数ですが[keles.treasurer@gmail.com](mailto:keles.treasurer@gmail.com)まで、メールアドレスをお知らせください。また、その際にはお名前、ご所属先も必ず記載してくださいませよう、お願ひいたします。